

一 告 告



亀田樹 (かめた いつみ)
金沢工業大学大学院工学研究科
ビジネスアーキテクト専攻
修士課程二年
富山県立富山いずみ高等学校出身

SDGsベンチャーを起業。 成長に一番驚く僕自身がいる。

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之

大学院の仲間たちと起業して間もない株式会社LODU(ロデュ)で、亀田さんは副社長の肩書を持つ。同社は、持続可能な社会の実現に向けて、人材育成の教育支援や企業、自治体との連携プロジェクトを事業の柱にする。学部生時代に開発した「THE SDGsアクションカードゲームX(クロス)」の普及や、過疎の進む山間部で、住民と豊

提に大学院へ進んだのです」失敗を恐れない強い意思が表情ににじむが、「入学から二年次の途中までは自分が何をしたいのか見いだせず、授業が終わるとアパートでゲームに熱中する毎日を送った」という。それを二変させたのが、二年次の十二月、同級生に誘われてインドへ行き、参加したSDGsのフィールドワークだった。

かな自然を生かした滞在型の学びの場づくりに挑戦するなど、活発なビジネス展開を見せている。「現在のLODU役員らを中心に三年前、SDGsの学生プロジェクトを立ち上げました。そこでやりがいを感じ、就職したうえでなくなるの思いが募りました。後悔が嫌だったのと、自分たちの力を試したい夢もあり、起業を前

亀田さんらが取り組んだテーマは「女性の働く場の創出」。買い物袋が新聞紙でできていることに着目し、日本伝統の折り紙の技術を取り入れ、付加価値を高められないかビジネスプランを考えた。だが、折り紙のことを調べようにも「3D」が機能せず、地元書店で本を探すと悪戦苦闘の連続。最終的に現地の企業二社に英語でプレゼンテーションするところまででき、「達成感の大きさに体が震えた」と振り返る深い感動が、今の亀田

さんを形づくったといえる。

その様子を一年次から見守り、修士研究の指導にもあたるのが平本督太郎准教授・SDGs推進センター長だ。「亀田くんの魅力は、後輩や小中高生と同じ視点に立て、しかも憧れの先輩としての背中を見せられる点」と評する。それは、漠然とした不安を抱えながら進路が見つからず悩む若者の気持ちに、自然に心を寄せられるからだろう。

「KITで学べて本当によかったと感謝しています。恩師やクラスメートに恵まれ、実践的な授業や課外プロジェクトで、ここまで成長できたことに僕自身が一番驚いています」。時代と価値観が大きく転換する今、SDGsを熱く語る亀田さんと、歴史の扉をこじ開けた維新の若き志士とがオーバラップして見える。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七一
電話番号 〇七六二四八一〇〇〇